

2021年第2ラウンド公式予選2

古谷悠河選手が1'48"679をマークしてレース5のポールを獲得 セカンドベストラップ順となるレース6は大草りき選手がポールポジション

2021 Formula Regional Japanese Championship(フォーミュラ・リージョナル・ジャパニーズ・チャンピオンシップ)のラウンド2の公式予選2がツインリンクもてぎで行われ、レース5は28号車の古谷悠河選手(TOM'S YOUTH)、レース6は45号車の大草りき選手(PONOS Racing)がそれぞれポールポジションを獲得しました。



レース5のポールポジション古谷悠河選手

昨夜まで強い雨が降っていたツインリンクもてぎですが、今日、日曜日は朝から曇り空ではあるものの、路面はドライコンディションとなり、午前10時00分にスタートした公式予選2では全車がスリックタイヤを装着してコースインしました。

各車とも15分間のセッションをフルに使ってタイム更新を目指しましたが、残り2分を切ったところで古谷選手が1分48秒679のベストタイムを記録し、前日のレース4で初優勝を飾った大草選手に0.021秒競り勝ち、レース5のポールポジションを獲得しました。2番手には大草選手、3番手には三浦愛選手(ARTA F111/3)が続きました。

一方、セカンドベストタイム順でグリッドが決められるレース6では、最後のアタックで大草選手が記録した1分48秒776が最速タイムとなりレース4に続き今大会2度目のポールポジションを獲得。2番手に古谷選手、3番手に三浦愛選手という順になりました。

マスタークラスも僅差の戦いとなり、レース5は39号車を駆る田中優暉選手(ASCLAYIndサクセスES)が0.027秒差でクラストップを獲得。2番手に34号車、三浦勝選手(CMS F111)、3番手に11号車の植田正幸選手(Rn-sportsF111/3)がつけました。セカンドベストタイムでは三浦勝選手が0.044秒上回り、レース6のクラストップを獲得しました。2番手に田中選手、3番手には植田選手が入りました。

レース5 ポールポジション 古谷悠河選手コメント

「今日の予選はタイヤの状態が一番良い時に前のクルマに詰まってしまいました。セッションの最後の方にベストタイムを出せましたけど、細かなミスもあったし、結果的にポールポジションでしたけど、あまり良い予選ではなかったなと思っています。昨日のレースでは読みが外れたというか、雨の量に合わせきれなかった部分がありました。でも、クルマ自体は非常に良いので、決勝もうまく走れるかなと思います。2連勝して終われるように頑張ります」

レース6 ポールポジション 大草りき選手コメント

「今週末にちゃんとしたドライコンディションで走るのは初めてで、スリックの新品タイヤも履けていませんでした。どれくらいグリップするのも正直分からなかったんで、そこを探りながら走る予選になりました。スタートが鍵になりそうですが、昨日からの良い流れを活かして負けないように頑張ります」

レース5 マスタークラス クラストップ 田中優暉選手コメント

「昨日はあまり調子が良くなかったのですが、今日はこうしてマスタークラスでトップを獲得することができて良かったです。クルマの仕上がりも良かったですけど、想定よりも路面のグリップがありませんでしたし、これから午後になっていけば路面の状況も変わるので、そこを注意して走りたいと思います。予選結果を見るとけっこう僅差なので、決勝もなかなか厳しい戦いになると思います。とにかくミスをしないようにしたいです」

レース6 マスタークラス クラストップ 三浦勝選手コメント

「昨年も、もてぎで1回クラストップを獲得できましたけど、決勝では良い結果を残すことができませんでした。このコースは昔からF4とかで良く走っていて、経験のあるコースです。だから、もてぎでは何とか頑張りたいなと思っています。今日はこれから2回レースがありますけど、1回は勝ちたいなと思っています」

以上